

浜松

徳川家康在城時の浜松城と城下町

The Ieyasu Years: Hamamatsu Castle and the Castle Town



引間城から浜松城へ

浜松城は、三方原台地の東縁にあたる段丘を利用した平山城です。中世には、現在の東照宮辺りが引間城と呼ばれていました。徳川家康は遠江全域を支配下に治めた翌年の元亀元年（1570）に、本拠を岡崎城から引間城へと移し、その名を「浜松城」に改めました。

家康が浜松を本拠とした17年間は、家康自身にとって、20代後半から40代という人生の壮年期でもありました。のちに「出世城」ともいわれた浜松城において、武田勢との激しい争いをくり抜けながら力を蓄えていった時期でもありました。

地図にあるように、浜松城の拡張整備に合わせ家臣団を城下各所に配置し、商工業者を集住させ、新たな城下町を築きました。

From Hikuma Castle to Hamamatsu Castle

In 1570, Tokugawa Ieyasu moved his base of operations from Okazaki Castle to Hikuma Castle, and renamed it Hamamatsu Castle.

As well as expanding the castle itself, he built a new castle town by locating his vassals around the castle and gathering people involved in commerce and industry."